

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：川口 久雄 所属：伊勢原市立成瀬中学校

課題名：小中連携による栽培活動の進め方について

1. 課題の主旨

自然とふれあう「菊づくり」を通して、生き物を育てることを体験し、言葉を発しない生き物にどう関わるかを考える中から、育てることの難しさ、自然の不思議さ、生命の尊さに気づき、美しさに感動する心、自然とのふれあいを通して協力する心を学ぶ。

また、小学校との連携により共同作業や分担作業を通して、子ども同士のふれあいを深め、思いやりの心や責任感を養う。

2. 活動状況

2年間（平成17・18年）にわたって、中学校区の3小学校（緑台・石田・成瀬）での菊づくりを通して、小中連携の取り組みをおこなうことになりました。中学校の教員が小学校で授業を行う「出前授業」などを考えました。中学生も、中学校の授業で学んだ内容を元に、小学校に行き児童と共に作業の手助けを行い、共同作業や分担作業を通して子ども同士のふれあいを深め、思いやりの心や責任感を養うことをねらいとしました。

○菊づくり

基本的な菊づくりの仕立て方はあるが、各学校・児童生徒の実情に合わせて菊づくりを楽しむ。

（大ギクの三本仕立て・だるまづくり・福助づくり）など。その他の菊（江戸ギク・肥後ギク・嵯峨キク・伊勢ギク）の仕立て方を知り、いろいろな作り方で栽培計画を立て、育てる。技術科の授業で菊づくりを行う。1年生は「福助づくり」・2年生は「だるまづくり」

○葉ボタンとパンジーの寄せ植え



3小学校とも手軽に育てられる「福助づくり」をすることになりました。緑台小学校と石田小学校では、学年の総合的な学習の時間を使って、3年生が行いました。成瀬小学校では、環境委員会が取り組むことになりました。

石田小学校の例

- ①目標 挿し芽からの菊づくりを体験することにより、植物の命について考える。
- ②観点 感じる力・・・・・・・・興味関心をもつ

行動する力・・・・・・・・意欲的に行動する

表現する力・・・・・・・・行動をみんなに伝える（観察記録・活動の感想）

③実践記録

1) 挿し芽 7月7日(金) 13:30~15:00

1人一鉢の挿し芽作業

子どもの声

- ・ 初めて菊を育てるので楽しみ
- ・ 葉っぱ1まいが大きくなるのが楽しみ
- ・ ま法のこなをつけたから安心
- ・ どんな菊の花がさくのか今からすごい楽しみ
- ・ ちゃんと、水あげるし、観察も忘れない



2) 夏休み中

菊が枯れてしまった。(3分の1ぐらい)・・・・・・・・挿し芽用土が原因と考えられる。

(毎年赤土のみでやっていたが乾燥すると思い別な土を使用)

3) 9月 鉢上げ作業 (5号鉢への定植・支柱立て)

菊が枯れたことを報告

残った菊を4クラス均等に分け、水あげ・観察をグループごとに実施

4) 10月 輪台つけ 菊花展(ふれあいまつり)

今年度は、中学生が種まきから育ててきた葉ボタンとパンジーの寄せ植えを3小学校に持っていき、お世話になった先生方に見てもらふことにする予定です。12月から1月の花の少ない時期には良い寄せ植えであると子供たちが考えたものです。



3. 結果

今年度は、挿し芽用土を変えたことによって、苗が根付く前に枯れてしまうものが多くあり、あらためて生き物を育てることの難しさを子供たちと共に実感しました。自然環境や諸条件により、言葉が発しない生き物にどう関わるかを考えながら、自然の不思議さ、生命の尊さに気づき、美しさに感動する心、自然とのふれあいを学ぶことができたと感じています。夏休み中に枯れたことを聞いた小学生の中には、涙ぐむ児童もおり真剣に取り組んでいたことを痛切に感じ取ることができ、指導者としての喜びを感じました。

4. 今後の課題と発展

今後も小中連携の推進に向けた取り組みを模索しながら進めていくことが重要だと考えています。また「小中交流会」「新入生説明会」「ふれあいまつり」などでの交流をより深めていくことも重要であると感じました。